

令和8年3月30日

糸魚川市議会
古畑 浩一 議長

糸魚川市議会 翠新クラブ
宮島 宏

行政視察報告書

行政視察の概要と成果について以下に報告いたします。

行政視察先 福島県石川郡石川町 石川町立歴史民俗資料館（イシニクル）
視察年月日 令和8年3月28日（土）
視察者 宮島 宏（翠新クラブ）
視察目的 石のまち糸魚川のグレードアップのための情報収集

石川町 基本情報	
人口	13,118人（令和8）
面積	115.71km ²
人口密度	113人/km ²
高齢化率	39.7%（令和5）
出生数	48人（令和6）
死亡数	233人（令和6）
議員定数	14人

- ① 歴史民俗資料館に収蔵されている大町龍二氏関係資料の調査と大町ゑひ子氏との面会による大町龍二氏の生涯の聴取
- ② 2024年にリニューアルされた歴史民俗資料館（イシニクル）の鉱物などの展示方法の調査
- ③ 一般社団法人地域商社SAKURAIIZE（サクライズ）が運営するミュージアムショップの調査

対応していただいた方々

首藤剛太郎氏（石川町長）、瀬谷寿一氏（石川町議会議員）、角田学氏（生涯学習課文化振興係長、歴史民俗資料館館長）、佐原崇彦氏（歴史民俗資料館学芸員）、鈴木正博氏（歴史民俗資料館 鉱物整理員）、小針良仁氏（歴史民俗資料館 資料館調査員）、大町ゑひ子氏（石川町民）

視察の成果

① 大町龍二氏関係資料の調査と大町ゑひ子氏との面会による大町龍二氏の生涯の聴取による成果

大町龍二氏は昭和初期の糸魚川市（当時は小瀧村）小瀧川での翡翠発見に関与した人物であり、1939年（昭和14）の東北帝国大学の岩石学者の河野義礼の現地調査の案内人を務め、河野氏の論文では大町龍二が1938年に小瀧川支流土倉沢で翡翠を発見したとされている。戦後に発行された翡翠再発見史に関する文献では、発見者は小瀧村野口在住の伊藤栄蔵であり、発見には相馬御風の発案が重要な役割を果たしたというのが、現段階での翡翠再発見史の定説となっている。

河野論文にその名前がある大町龍二氏は当時、根知村根小屋に住み、鉱床探査を行っていた。翡翠再発見史の中で重要な人物であるにもかかわらず、1976年に発行された糸魚川市史第1巻の翡翠発見史の項にはその名前もなく、これまでその人物像はほとんどわかっていなかったが、今回の調査により大町龍二氏の出自や家族などについて以下のようなことが判明した。

【成果】

1. 大町龍二氏は長野県北佐久郡小諸町（現在の小諸市）の出身で、旧姓は小山であった。
2. 大町龍二氏（旧姓小山）の小山一族は、小諸地域を代表する有力な一族で、江戸時代から味噌・醤油醸造業や製糸業を営んだ豪商・大地主であり、小諸藩の御用達を務めた名家で、小山敬三（画家、文化勲章受賞者）や小山邦太郎（初代小諸市長・県議・衆議院議員・参議院議員）を輩出し、経済・文化・教育の発展に寄与している。



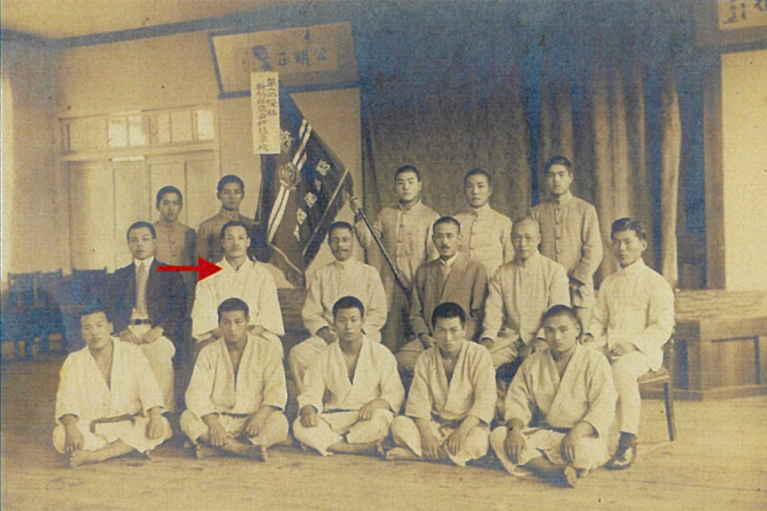
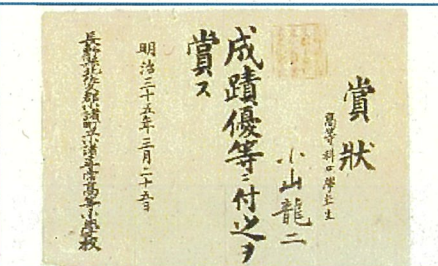
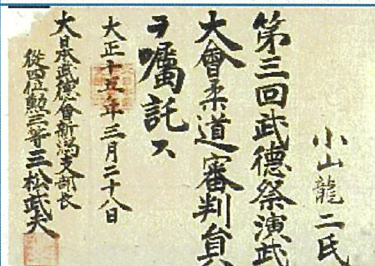
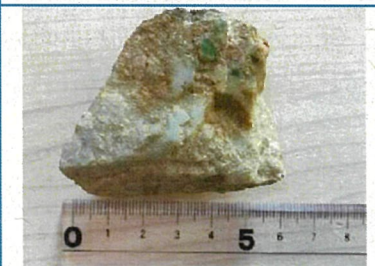
3. 龍二氏は講道館の柔道五段の段位を持ち、1921年（大正10）に長野市武術會の紹介で高田師範学校柔道部の師範となった。1922年に松本高等学校で行なわれた第一回信越甲岐群柔道大会では、高田師範学校が優勝している。詳しい生没年はゑひ子氏に依頼して調査中。
4. 龍二氏は昭和初期に大町家の養子となり、妻のカツ氏（宮崎県出身）の間に二男一女をもうけた。長男の力（つとむ）氏は高田師範学校附属小学校に1929年（昭和4）に入学し、高田中学、拓殖大学を経て、大成建設に勤務した。力の妹の春子氏は下根知尋常高等小学校に1938年（昭和13）に入学しているが、2年生以降の所属校は不明である。次男の龍雄氏については不明。
5. 大町春子氏は石川町にあったジルコン工場（後に理研希元素工業扶桑第806工場となる）で事務員として働いていた。
6. 龍二氏の写真はこれまで不鮮明なものしかなかったが、今回の調査で鮮明な写真が数枚残っていることがわかった。春子氏の写真や、力氏の根知駅や月不見の池での写真も確認された。
7. 調査に協力していただいた大町龍二氏の孫であり、大町ゑひ子氏は東京都杉並区阿佐ヶ谷に生まれたが、澤田彦一氏と春子氏（旧姓大町）の養子となり、石川町で暮らすようになり現在に至る。
8. 拝見した資料の一部は黒変し、焦げた跡もあった。これは大町氏の家が火事になり、鎮火後にゑひ子氏が現場から取り出したもののためである。
9. 資料には翡翠の原石（1点）とカボションカットした多数の翡翠の指輪があった。
10. 大町龍二氏の石関係の資料の中には、瑪瑙、赤玉、碧玉、地元産の電気石や石川町にいた理化学研究所の飯盛里安博士が製作したと思われる人工宝石（ビクトリア・ストーン）があった。
11. 石川町が2013年に発行した「ペグマタイトの記憶」という書籍の119頁に掲載された石川町の塩ノ平採掘場前で1944年11月21日に撮影された集合写真（下の写真）の最前列の人物が、大町龍二に似た風貌であることから、孫の大町ゑひ子氏に確認したところ龍二氏ではないかとされた。この写真には飯盛里安や長島乙吉らが写っている。



最前列の男性が、大町龍二氏の可能性が高いことが大町ゑひ子氏より指摘された。

なお、福島県石川町で戦時中～終戦の日まで行なわれていた採掘作業は、理化学研究所の仁科芳雄が中心となって進められた「二号研究」と呼ばれる日本の原子爆弾製造のためのウランを得るためのものであったが、十分なウランが得られず、日本の原子爆弾製造は実現しなかった。戦後、原爆製造のための機器は進駐軍によってすべて破壊された。

龍二氏は戦前に長島乙吉と東京で会って翡翠の販路などを相談しており、長島乙吉に誘われて福島県石川に転居した可能性がある。長島乙吉は戦後、小滝の伊藤栄蔵氏の家に宿泊し、翡翠の露頭を探す調査を行っている。

		
大町龍二・カツ夫妻	高田師範学校の柔道部（松本高等学校での第一回信越甲岐群柔道大会で優勝したときのもの 1922年 大正11年）赤矢印が大町龍二氏 撮影場所は高田師範学校内と思われる	
		
小諸尋常高等小学校時代の賞状（1903年） 1903年に高等科4年（14歳）であったことから龍二氏の生年は1889年（明治22）頃となる	柔道の審判員の囑託状 1925年	上の写真の下部にある高田の小熊写真館のマーク 写真館は明治44年創業で、当時の洋館は明治村に移築されたが、写真館は現存する
		
大町春子氏（龍二氏の長女）	糸魚川産翡翠の原石	糸魚川産翡翠の指輪

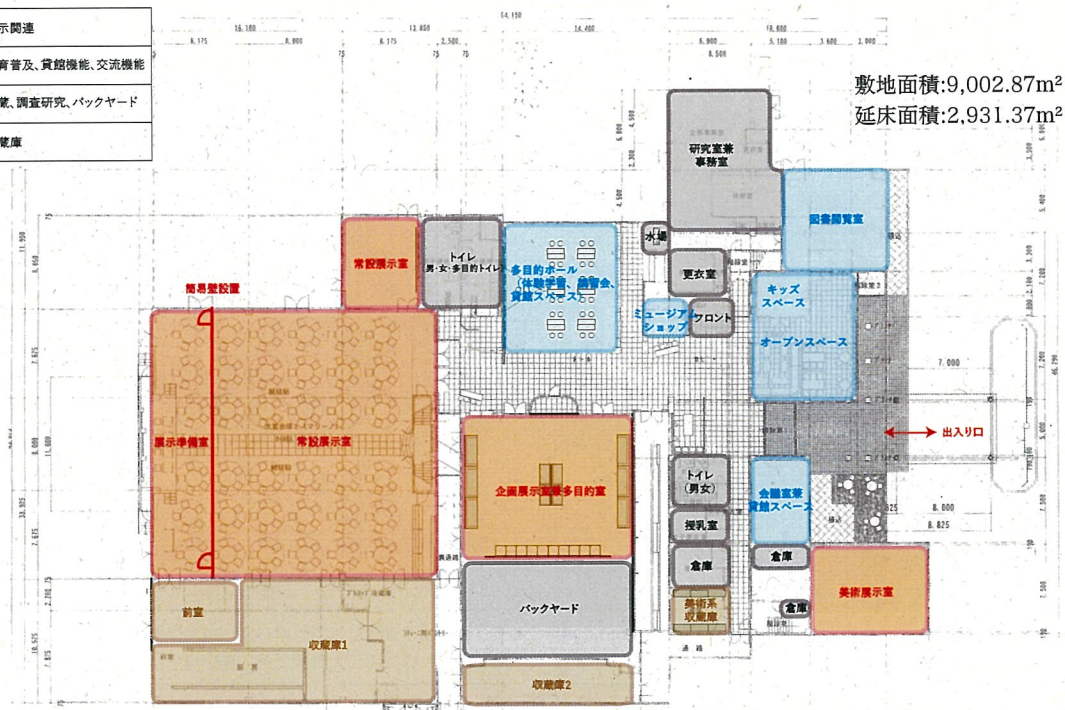
② 2024年にリニューアルされた歴史民俗資料館（イシニクル）の鉱物などの展示方法の調査

福島県石川町は『日本三大ペグマタイト地帯』あるいは『日本三大鉱物産地』として古くから知られる。石川町立歴史民俗資料館は**1974年（昭和49）に開館**し、地域の歴史や自然を展示してきたが、リニューアル前の問題として以下が指摘されていた。①収蔵資料の増大と保管場所が分散し一括管理できていなかった、②不適切な展示収蔵環境（空調設備なし・外光の侵入による展示物の劣化）、③ユニバーサルデザインの未導入（入口に階段・三階建てだがエレベーター無し）、④展示内容の陳腐化（常設展に最新の学説が反映されていない）。石川町では2018年（平成30）3月に石川町歴史文化基本構想をまとめ、その中で歴史民俗資料館の現状と課題について、老朽化に加え、十分な展示及び保管スペースがないことから、改修の必要性が指摘されていた。リニューアル前は**年間約2,000人**の入館者があった。

石川町ではこれらを受けて町内にあった**廃業された旧ホテル松多屋（グランフォーレ松多屋）の土地と建物（築約30年以上）を取得**し、歴史民俗資料館のリニューアルを図ることにした。旧ホテル松多屋は以下の優れた立地条件や特徴を持つ。①結婚式場だったため常設展示室となりうる大型の宴会場があるほか、延床面積が広く、十分な収蔵スペースを確保が可能、②石川町の主要道路の国道118号線沿いに位置し、広い駐車場も確保できること。

(凡例)

	: 展示関連
	: 教育普及、貸館機能、交流機能
	: 収蔵、調査研究、バックヤード
	: 収蔵庫



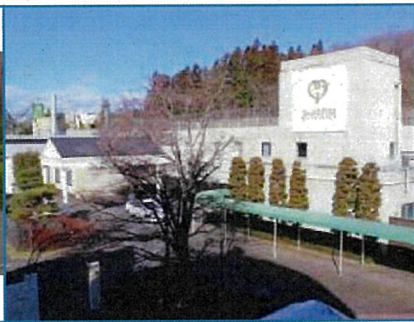
ゾーニング平面図 S-1/200 (A4)



1974年開館の旧歴史民俗資料館
小学校の校舎を再利用していた



改修前のグランフォーレ松多屋 2018年ごろの
写真 右側はチャペルで現在は閉鎖されている



改修前のグランフォーレ松多屋



リニューアル後の歴史民俗資料館



石川町産の巨大な水晶や長石



受付はショップと連続している



常設展示室



常設展示室に残る披露宴会場の名残
新郎新婦が階段から降りて登場した



企画展示室 床のカーペットは元々のもの

リニューアルされた石川町立歴史民俗資料館は、耐震補強と内外のリフォームをした後、館内の展示工事を行って2024年4月27日に開館した。**入館料は大人300円、小学生～高校生150円**。リニューアルに際しては、元々の施設で資料館としても使用できるもの（床のカーペット、液晶プロジェクター、金色の把手のついたドアなど）は、そのまま残っていた。2つの宴会場のうち、広い方を常設展示室にし、狭い方の展示室を企画展示室に利用していた。企画展示室は多目的室としても利用され、貸館もしている（600円／時間）。

石川町立歴史民俗資料館の移転改修工事にかかった費用は下表の通りであり、総額6.51億円のうち、実施設計及び工事監理の経費が約0.35億円、工事費は約6.16億円である。国庫補助金として**空き家対策総合支援事業補助金**と**デジタル田園都市国家構想交付金**で約2.34億円、**過疎対策事業債**が約3.26億円、**町単費**約0.92億円である。基本計画では約5.5億円の総工費としていたが、ウクライナ情勢やコロナ禍により資材及び人件費の高騰に見舞われ、また、空き家の改修ということで、設計段階では把握できなかった問題が発生したため、当初の予算よりも増加している。

リニューアル後の年間の入館者数は、令和6年度は4月27日オープンから14,253人（285日開館）であり、令和7年度は3月12日現在で、16,374人で、最終的には17,000人に届くかどうかであろう。

石川町立歴史民俗資料館 イシニクル 移転改修工事に係る経費 （単位：円）

	金 額	国庫補助	過疎対策事業債	町単費
土地建物購入	118,000,000		118,000,000	
アスベスト除去工事	3,795,000			3,795,000
1期 外部建築工事	193,380,000	96,690,000	96,600,000	90,000
1期 外部建築工事設計業務委託	11,341,000	5,670,000	5,600,000	71,000
1期 外部建築工事監理業務委託	4,158,000			4,158,000
2期 内部工事（電気機械・建築）	120,406,000	60,200,000	60,000,000	206,000
2期 内部工事設計業務委託	8,195,000			8,195,000
2期 内部工事設計監理業務委託	2,607,000	1,300,000	1,300,000	7,000
3期 内部工事（電気機械・建築）	45,348,600	22,670,000		22,678,600
3期 内部工事設計業務委託	5,753,000			5,753,000
3期 内部工事監理業務委託	2,343,000	1,170,000		1,173,000
常設展示設計製作業務委託	89,963,500	44,980,000	44,000,000	983,500
会議室等電気機械設備工事	27,940,000			27,940,000
展示物等設計製作設置業務	17,930,000	820,000		17,110,000
合 計	651,160,100	233,500,000	325,500,000	92,160,100

※国庫補助については、展示物等設計製作設置業務のみデジタル田園都市国家構想交付金、ほかは空き家対策総合支援事業補助金

【成果】

1. 石川町立歴史民俗資料館のリニューアル工事は、既存の建物を再利用したものであるため、総工費は約6.5億円（土地購入費、建築・展示設計、工事費等）であり、新築した場合よりもはるかに低予算で実現している。元々の結婚式場が閉鎖されて数年間であったので、内装の傷みはあまりひどくなかったが、前述の通り設計段階では把握できなかった問題もあって工事費が増加した。**糸魚川市でも既存の施設の再利用が今後増えてくる可能性があるが、建物の状態や構造（耐震基準を満たしているか）が重要になるだろう。**石川町立歴史



民俗資料館の敷地には結婚式場として使われていた時代のチャペルの建物（右上の写真）が残っており、かなり異質な景観となっている。現段階ではその建物の利用計画はなく、取り壊しの予定もないという。

2. 石川町立歴史民俗資料館では、今回のリニューアルで分散していた収蔵資料を一箇所にまとめることができた。糸魚川市のフォッサマグナミュージアムでは、開館後30年以上が経過し、多くの資料が収集されてきたが、中にはフォッサマグナミュージアム以外に収蔵されている資料もある。収蔵しきれなくなった文化財（特に民具）が廃棄されることが問題になっているが、**フォッサマグナミュージアムの収蔵機能を充実させ、一元的に管理できるようにすることは重要であると考えられる。**
3. 石川町立歴史民俗資料館では、以下のような質の高い単行本や企画展図録を作成しており、これらは重要な資料として活用されている。**市内の博物館や資料館での企画展や特別展では、図録が作成されることがほとんどなく、単行本や図録は蔵入にもなることからその発行を励行すべきと考える。**

石川町立歴史民俗資料館で発行した図録や単行本：

日本と世界の鉱物 ～渡辺敢仁コレクション～（2025年発行）、鎚音 ～名工小松虎吉・小林和乎は斯誕生した～（2024年発行）、ペグマタイトの記憶 石川の希元素鉱物と『二号研究』のかかわり（増補版）（2024年発行）、河野広中没後100年記念展～石川地方の人々と河野広中～（2023年発行）、町民所有 石川町産鉱物展～我が家のお宝～（2021年発行）、ベリリウムの華 魅惑の緑柱石・金緑石展（2019年発行）、世界の水晶体展2 石川町立歴史民俗資料館所蔵コレクション（2018年発行）、「福島県の石」石川町のペグマタイト鉱物・片麻岩 第3版（2024年発行）、石川の大地教育の母 三森たか子先生93歳の生涯（2016年発行）、図録 石川地方の自由民権運動（2017年発行）、町村合併40周年記念特別企画展 世界の水晶体展（1995年発行）、放射化学の泰斗 飯盛里安博士 石川町における研究と生活の軌跡（2017年発行）、石川町の地質 石のまち石川の鉱物・岩石・地質（2019年発行）、いしかわの石の物語 改訂三版（2011年発行）、鉱物の里 のぎざわ 改訂版（2011年発行）、石川の鉱物と岩石（2001年発行）、石川公追遠四百年記念誌（1990年発行）、平和の誓い 語り伝える石川町戦争の記憶（1996年発行）

4. 石川町立歴史民俗資料館では、新たに作られた展示ケースが使われていた。気になったのは展示ケースに透明アクリルが使われていることで、ガラスと比べてアクリルは傷がつきやすいので、長年の使用によってかなり傷がつく可能性が高い。また、展示物の照明に色温度が低い電球色LEDが使われ、演色性が低いいため鉱物などの本来の色を見せることができないと思った。展示工事は、フォッサマグナミュージアムと同じく株式会社日展が担当している。
5. 地元の県立石川高等学校の3年生の総合研究テーマとして「**石川町の鉱物推し化計画**」が展示されていた。**石を多面的に扱うことで、より多くの人の注目を集める取り組みとなるので、糸魚川市でも今年9月に予定されている『瑠璃の宝石』に関する特別展の取り組みの参考になるだろう。**（下の写真）キャラクターの名前に岩石や鉱物にちなむものが使われている。



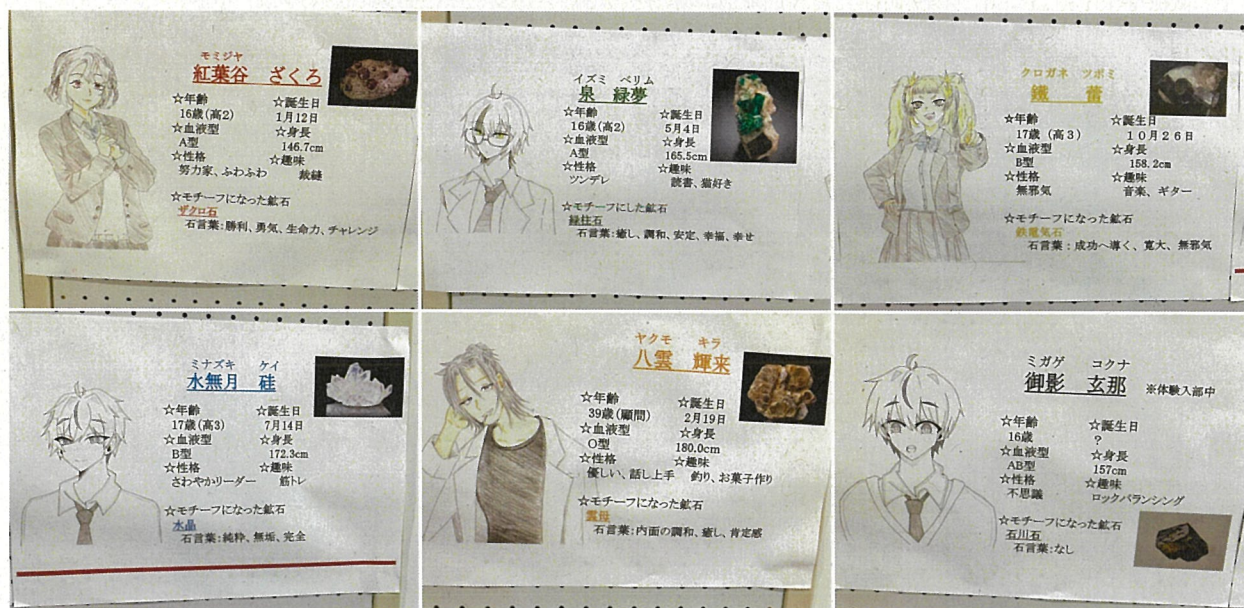
SAKURAIZEの事務所（石の後ろ）

受付はショップと連続している

隣接する棚倉町産の粘土から作られた商品

商品の陳列方法は出品者が工夫している

狛犬製作地であり、そのカプセルトイが人気



⑥ 一般社団法人地域商社SAKURAIZE（サクライズ）が運営するミュージアムショップの調査

石川町立歴史民俗資料館内には、石川町の観光物産を全国に繋げて「稼ぐ」ことで、地域への投資を促進し、地域全体の発展を目指す組織として2024年4月に設立された地域商社SAKURAIZEの事務所がある。SAKURAIZEの前身として観光物産協会があったが、会員事業者や地域からの多様化するニーズに応え、既存の取り組みの枠を超えて活動の幅を広げていくために法人化された。SAKURAIZEには、総務省の地域創造グループの「**地域活性化起業人制度**」によってサントリーホールディングス株式会社から出向している人がいる。この制度は都市部の企業社員を地方自治体に（6ヶ月～3年）派遣し、民間の専門知識やノウハウを活かして地域課題の解決を図るもので、自治体は経費の補助（最大590万円/人）を受けながら、観光振興やDXなどの即戦力人材を獲得でき、企業は人材育成の場として活用している。2025年度（令和6）で、本県と近県でこの制度を活用している自治体は以下のようなものである。新潟県：三条、加茂、燕、見附、阿賀野、佐渡、津南。長野県：茅野、諏訪、売木、木曽、白馬、山ノ内、木島平。富山県：氷見。2026年度（令和8）には、糸魚川市も地域活性化起業人制度を活用することになっている。石川町立歴史民俗資料館内のショップと受付業務はSAKURAIZEが行い、学芸業務は町の職員と町から嘱託を受けた人が担当している。ショップでは商品を納めた業者がそれぞれ工夫した陳列を行っていた。

以上